

あの街について

「御茶ノ水」「神田駿河台」「神保町」これらの地名を耳にするたび、今なお色んな想いが胸に去来します。学生街といった表現が本当にぴったりな街でした。

私が在学していた時期は、世間はちょうどバブルの真っ只中。人も街も、そして当時の学生も浮かれていて賑やかな時代でした。神田の街も、表通りにはスキーショップや楽器店などの若者向けの店がたくさんあって騒々しいくらいでした。でもその表通りを1本内に入ると、そこには昔ながらの古い街があって意外と静かで落ち着いているのが好きでした。細い路地や、坂がたくさんあって立体的で、非常に表情豊かな街だったように思います。

神保町の古書店街の裏にあった喫茶店。正統派の東京醤油ラーメンの店。その場で立ち飲みできる酒屋。老舗の蕎麦屋。安くてもボリューム満点の洋食屋にとんかつ屋。男坂に女坂。御茶ノ水駅のホームから眺める聖橋。5号館から見る新宿ビル群の夕暮れ時の風景。お気に入りスポットがあちこちに点在していました。そんな街をひとりでぶらぶらと、友人たちとぐだぐだと、そして時には可愛いあの娘とゆっくりと、歩いていた時間が、今はただ懐かしく思い出されます。

ごく普通の法学部の学生だった私ですが、3年生になった時に運良く栗本慎一郎教授のゼミに入ることができました。当時栗本教授は、タレント学者と呼ばれるくらいマスコミにひっぱりだこで、ゼミのコンパに雑誌が取材に来たりだとか、合宿にTV局のクルーがついて来たりだとか、これまた賑やかなゼミでした。

TVでは軽薄そうに見える栗本教授でしたが、実は学生に対する面倒見が非常にいい方で、なおかつ学問に関しては妥協しないご指導をされる方でした。法とは何か？から始まって、社会学・民俗学・経済人類学・現代文明論まで社会科学全般におよぶ講義を受け、とにかく沢山の本を読んだのをよく覚えています。また、ちょうどその頃、中国で天安門事件が発生して、教授が興奮しながら、リアルタイムで解説していただいたのも忘れられません。目から鱗が落ちるような学問的刺激を次々と受け、2年間で頭の中に色々なものをごった煮状態で詰め込んだような気がします。柳田國男の民俗学も、ドラッカー博士の業績も、ポランニー博士の理論もみんなあの時代に学ばせていただいて、しかもそれは今も自分の中にしっかりと残っていて、物事を思考する際のベースになっているように思います。

青春のかけらを置き忘れたあの街。ちょっと背伸びした気分でアカデミックな空気を胸一杯吸い込むことができる街。あの街でもう一度勉強してみたいなあ。

年を取って少し時間に余裕が持てるようになったら、明治大学の社会人講座でも聴講しに行こうかな。そんなことを考えている今日この頃です。